

当院における抗酸菌の検出状況

◎大石 和伸¹⁾、栗岡 純子¹⁾、佐々木 理恵¹⁾、深澤 真¹⁾、菌田 明広¹⁾、島田 俊夫¹⁾
 地方独立行政法人 静岡県立病院機構 静岡県立総合病院¹⁾

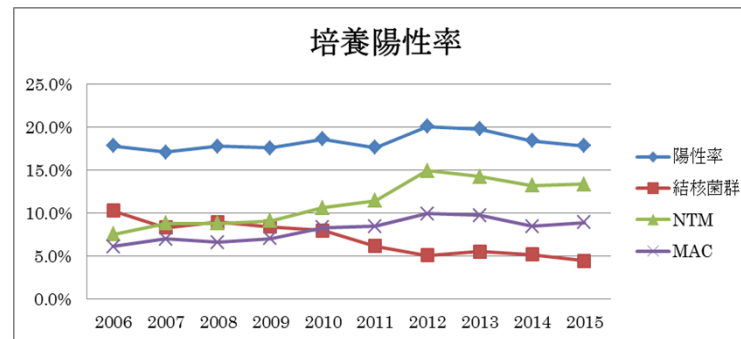
【目的】日本の結核罹患率は減少しているが、その速度は鈍っており、依然として先進国においては中蔓延国である。また、非結核性抗酸菌症も増加してきている。今回、10年間の抗酸菌の検出動向を調査したので報告する。

【対象・方法】2006年から2015年の10年間に当院検査室に提出された42,993件を対象とした。分離培養は、NALC-NaOHで処理後液体培地法（BACTEC MGIT960システム、日本BD）で7週間培養し、固形培地法（工藤PD培地、日本BCG）を用い8週間培養した。同定検査は、キャピリアTB（タウンズ）、アキュプローブTB（極東製薬）、アキュプローブMAC（極東製薬）、DDHマイコバクテリア（極東製薬）で行った。

【結果】抗酸菌の培養陽性率は、2006年からそれぞれ17.8%、17.1%、17.8%、17.6%、18.6%、17.6%、20.1%、19.8%、18.4%、17.8%であった。結核菌群は、10.3%、8.3%、9.0%、8.4%、8.0%、6.2%、5.1%、5.5%、5.2%、4.5%。非結核性抗酸菌（NTM）の中では *Mycobacterium avium complex*（MAC）の検出が一番多く陽性率は、6.1%、

7.0%、6.6%、7.1%、8.3%、8.5%、10.0%、9.8%、8.5%、8.9%であった。

【まとめ】培養陽性率は、ほぼ横ばい状態を示した。その中で結核菌群は、減少してきている。非結核性抗酸菌の検出率は調査開始時に比べ約2倍に増加してきた。MACの陽性率も徐々に上昇してきており、結核病棟を有する当院においても2010年以降結核菌群を上回る結果となった。今後はNTM検出状況にも注意深く見守っていく必要があると思われる。



連絡先 054-247-6111 内線 2251